

AD リスクマネジメント News

2025. 08

—就学前施設（保育園・幼稚園・認定こども園等）向け
現場からのお役立ち情報—

No. 31

早朝、延長時間の異年齢保育で起きやすい事故があります

園児の人数が少ない早朝や夕方は、年齢ごとの部屋ではなく異年齢と一緒に過ごす時間帯があります。普段とは異なる部屋で、異なる年齢の子どものかかわりもあり、興味関心や活動の幅を広げる機会にもなります。でも、異年齢の子どもが集まるからこそ生じる危険もあります。



【こんな事故が起きています】

異年齢保育の時間のこと。他児が使っていた色鉛筆が5歳児の目に入り、右眼角膜上皮剥離の重傷。保育室には色鉛筆が安全に使えない年齢の園児もいたが、色鉛筆は誰もが使える場所に置かれていた。

⚙️「いつもと違う」が一つでもあったら要注意

行事の準備等で、いつもと違う部屋で早朝保育を行うこともあります。また、担当職員がお休みで、いつもと違う職員が担当することも。そんな「いつもと違う」があるときは、いつも起きないことが起きやすい状況にあります。普段よりも丁寧に環境整備や申し送り事項の確認をしましょう。

⚙️人数が少ない＝安全 ではありません

同じ人数でも、同年齢と異年齢では注意する安全の観点が異なります。また、活発な遊びが好きな子もいれば、黙々と積み木で遊ぶ子もいます。人数よりも、子どもの年齢や特性に基づく安全管理が必要です。

異年齢保育を行う環境の安全チェックをしましょう！

☐ 部屋の広さは、一緒に過ごす子どもの年齢や人数に合っていますか？

赤ちゃんや歩行が不安定な小さな子は、動きが活発な大きな子とお部屋を分けることをお勧めします。

☐ 遊びの設定は、上の年齢の子も下の年齢の子も楽しめる内容ですか？

☐ 年齢ごとの部屋を使う場合、他の年齢の子にとって危ない玩具や場所はありませんか？

☐ 担当する職員は、保育する子どもの情報（体調や発達状況等）を把握していますか？



早朝や夕方は、登降園する園児や保護者の対応をしながら保育をする時間帯です。職員同士が声をかけあいながら見守りをしている、目が離れてしまうこともあります。

見守り＋環境整備＝忙しい時間帯の保育を安心安全に

発行責任者 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
マーケット開発部 市場開発室
担当 堀江・赤石 TEL 050-3462-6444

執筆者 所 真里子
（日本こども育成協会シニアフェロー／『イラストで学ぶ 保育者のための「ハザード」教室』著者）

担当課・支社 代理店